D 34　整容用下着類の緊縛が皮膚血流量に及ぼす影響

京都女大家政　○米田幸雄　稲沼素子

目的　被服による圧迫が身体機能に及ぼす影響の一つとして血流障害がある。着衣時の圧迫では帯・紐類によるものが顕著であるが，日常の衣生活では整容用下着類の圧迫が考えられるので，整容用下着類で被覆されている部位の皮膚血流量の変化をレーザドップラー血流計を用いて測定した。

方法　被験者は女子学生4名で，皮膚血流量の他に皮膚温と圧迫量を測定した。その測定器はサーミスター温度計，DATA LOGERひずみ計である。　まず，スリップ，ショーツブラジャーのみを着用し，気温25℃，気温60％に設定した人工気候室内で椅坐位で一時間の安静を保った後に測定し，次いで，これに数種のウエストニッパーを着用して5分間おいた後に測定した。椅坐位の他に椅坐位前傾，立位，立位前傾などの姿勢についても行った。

結果　圧迫量は多くの場合，5g/cm内外の小さいものであったが，サイズが同じでも型によって異なった。ある程度緊縛度が強いと思われるウエストニッパー着用時の躯幹部7箇所における変化をみると，皮膚血流量は増大する場合と減少する場合とがあったが，一般には増大する傾向であった。皮膚温には大差がないが低下する傾向にあった。これらは躯幹部側面において顕著であった。他のウエストニッパーでも同様の傾向を示し，血流量はその型に関係なく，サイズの同じものが近似の値を示した。

本実験に用いたウエストニッパーは緊縛度が強くなかったが，皮膚血流量に変化が認められ，その変化は必ずしも減少するとは限らず，増大する場合もあった。